

行

車塵集に就つ

蒲池 尊

我が國で、詩の翻譯といふのは餘り古く
 はないやうである。外國の詩で始めて日本に
 けいつて来たのは言ふまでもなく漢詩であら
 うが、大友の皇子が始めて漢詩を作られたの
 が記録に残る最初で、一三〇〇年ほどは前の
 事になった。従つて日本人が漢詩を讀むやうに

なつたのは、よほど古い時代からであらう。
 たかゝるにしては日本人は漢詩を讀して味
 はると云ふことを餘りしよかつた様であつた。
 るは日本人が大いなる叡智の所産と考へた
 べき訓讀法（一種の直讀法）を發見して、大した
 苦勞なしに^{支那の}典籍が讀み味之たことと、今一つ
 は男子は女子の假名文字に對して、漢字を男
 文字と考へて、漢詩漢文を作ることか常であ
 つたから、漢詩を日本の詩の形式にうつして、
 即ち翻譯して味うといふ必要性を餘り感しな

何故